

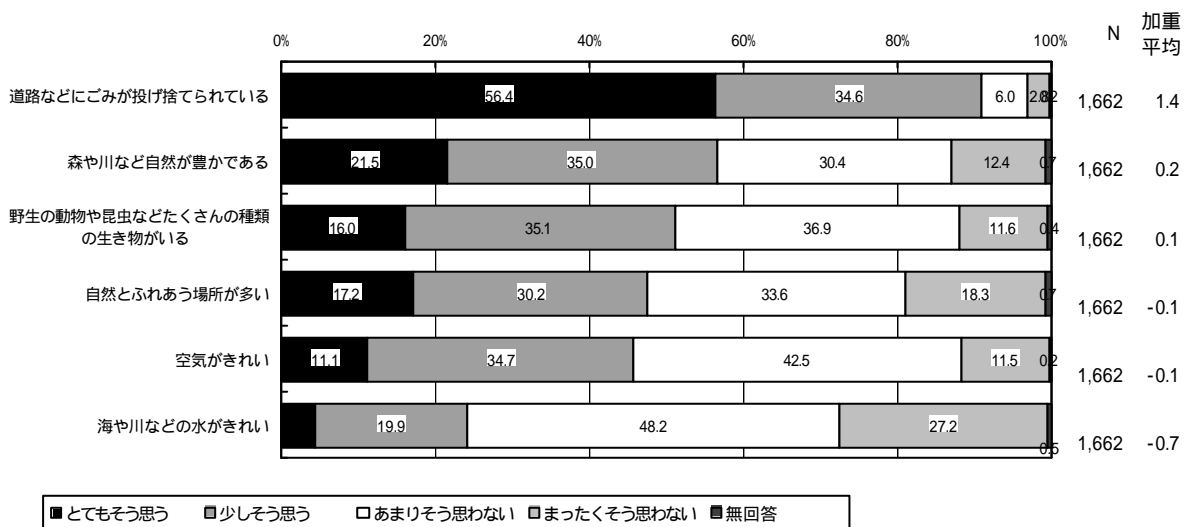
1. 身のまわりの環境認識（問1）

「森や川などの自然が豊か」「野生の動物や昆虫などたくさんの種類の生き物がいる」と認識する子どもは過半数を超えるが、「海や川などの水がきれい」との認識は4人に1人とどまり、91%が「道路などにごみが投げ捨てられている」と認識している。

身のまわりの環境の認識を尋ねたところ、環境を肯定的にとらえたものとしては、「森や川など自然が豊かである」「野生の動物や昆虫などたくさんの種類の生き物がいる」の肯定率（「とてもそう思う」と「少しそう思う」の合計）がそれぞれ 57%、51%と 50%を超えた。「空気がきれい」「自然とふれあう場所が多い」についてはやや肯定率が低く、それぞれ 46%、47%となっている。

一方、環境の悪化を認識するものとしては、「道路などにごみが投げ捨てられている」の肯定率が 91%、「海や川などの水がきれい」の否定率（「あまりそう思わない」と「まったくそう思わない」の合計）が 75%となっている。

【図表 1-1】身のまわりの環境認識（全体）



注) この項の加重平均は、「とてもそう思う」に2点、「少しそう思う」に1点、「あまりそう思わない」に-1点、「まったくそう思わない」に-2点を与えて算出した。

小学生は中学生よりも「空気がきれい」「海や川などの水がきれい」「森や川など自然が豊か」「野生の動物や昆虫などたくさんの種類の生き物がいる」と認識する傾向がみられる。

性別による認識の差はあまりないが、都市規模別にみると、都市規模が小さくなるほど「空気がきれい」「海や川などの水がきれい」「森や川など自然が豊か」「野生の動物や昆虫などたくさんの種類の生き物がいる」「自然とふれあう場所が多い」と認識する率が高く、特に町村部では「空気がきれい」「野生の動物や昆虫などたくさんの種類の生き物がいる」「自然とふれあう場所が多い」が71～75%、「森や川など自然が豊か」が81%と高い。そうした中で「道路などにごみが捨てられている」状態は都市規模に関わりなく全国に広がっているといえ、どの都市規模でも88～94%を示している。

【図表 1-2】身のまわりの環境認識（学齢別、性別、都市規模別）
（「とてもそう思う」と「少しそう思う」の合計比率）

	全 体	学齢別		性別		都市規模別			
		小学 生	中学 生	男 子	女 子	政 令 指 定 都 市	1 0 万 人 以 上	1 0 万 人 未 満	町 村
調査数	1,662	755	907	881	772	299	538	341	484
空気がきれい	45.8	51.5	41.0	46.7	45.2	18.1	29.3	60.4	70.8
海や川などの水がきれい	24.1	27.3	21.4	25.1	22.9	8.7	8.3	36.6	42.2
森や川など自然が豊かである	56.5	63.0	51.1	55.2	58.4	24.4	41.9	73.3	80.8
野生の動物や昆虫などたくさんの種類の生き物がいる	51.1	58.8	44.7	52.6	49.3	28.1	39.0	56.3	75.0
自然とふれあう場所が多い	47.4	49.5	45.7	46.4	48.7	15.4	34.1	63.3	70.9
道路などにごみが投げ捨てられている	91.0	91.3	90.8	89.4	92.9	94.0	92.6	90.0	88.2